



# 原子力産業新聞

2012年2月16日  
平成24年(第2610号)  
毎週木曜日発行  
購読料1年分前金(消費税、国内送料込)  
会 員 9,500円(1部220円)  
非会 員 15,000円(1部350円)  
(当会会員は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部)

発行所 日本原子力産業協会

〒105-8605 東京都港区虎ノ門1丁目2番8号 虎ノ門琴平タワー9階 郵便振替 00150-5-5895  
電話 03(6812)7103 FAX03(6812)7110 ホームページ <http://www.jaif.or.jp/> メールアドレス [shinbun@jaif.or.jp](mailto:shinbun@jaif.or.jp)

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

## 米国で34年ぶり認可

米原子力規制委員会(NRC)は九日、新たな原子力発電許可制度に変わってからの建設・運転一括認可をサザン社が南東部ジョージア州で進めているボーグル原子力発電所3、4号機建設計画に発給する判断を下した。新規建設計画としては一九七八年に最後のシアロンハリス1号機が着工して以来、三十四年ぶりの建設認可。十営業日後の正式発給を待って、サザン社では米国で初めてのウェスチングハウス(WH)社製AP1000二基を二〇一六年と一七七年に運用させるため、百四十億ドルに及ぶ本格的な建設作業を開始する。世界最大の原子力発電国の米国が新たな選択肢として原子力発電を再び選択し、実際に建設に着手したことの意義は極めて大きい。

## ボーグル3、4号が本格着工

福島事故検証後に設計承認 WH 静的安全設計を採用

AP1000は現在東芝の子会社になっている。米国WH社が開発した最新鋭のPWRで、外部動力を使用しない静的安全設計を採用、NRC内の専門調査チームが福島第一原子力発電所事故を受けた原子炉の安全性強化策の検討を行った上で、AP1000で、WH



これまでの経緯

米国では一九七九年の第二次石油危機に起因する原油価格の高騰により電力需要が伸び悩み、火力発電を始めとする多くの発電所建設計画がキャンセルとなった。また、同じ年に発生したTMI事故の影響は、それ以降、原子炉の新規発注を途絶えさせるに至っていた。

二〇〇二年になると当時のG・ブッシュ政権が、二〇一〇年までに新たな原発の建設と運用を目指す「一シブ」を提案。運転開始までの許認可プロセスを簡素化するため一九八九年に規定された連邦規則の下、①事前サイト許可(ESP)の標準設計認可(DC)②建設・運転一括認可(COL)を柱とする新たな許認可制度の実証が二〇〇三年から始まった。

サザン社の子会社がボーグル計画でCOL申請したのは〇八年三月の九年に規定された連邦規則の下、①事前サイト許可(ESP)の標準設計認可(DC)②建設・運転一括認可(COL)を柱とする新たな許認可制度の実証が二〇〇三年から始まった。

ここで、原子炉安全諮問委員会(ACRS)は同計画の安全面およびNRCスタッフによる安全評価報告書を審査。NRCは一年一月にその審査結果を受け、同年八月に安全評価報告書の最終版を発行している。また同計画の環境影響審査は昨年三月に完了し、NRCは最終補足環境影響報告書を発行していた。

NRCはまた、昨年末に同計画で採用されているAP1000の修正版に新たなDCを発給しており、これにより同計画へのCOL発給準備が事実上整った。この関連で、同じくAP1000の建設を想定したV・C・サマー2、3号機計画でも、NRCはまもなくCOLを発給すると見られている。(3面に経緯表)

## 保安院、ストレステスト初判断 大飯3、4号機「妥当」

原子力安全・保安院は十三日、関西電力の大飯発電所3、4号機(PWR)に対する審査結果を取りまとめ、同日の原子力安全委員会の臨時会議で報告した。同院から安全

委員会は、ストレステストの結果が上がるのは、これが初めて。大飯発電所の二基について、福島第一発電所が被災したような地震・津波が来襲しても、事故には至らぬよう対策が講じられ

ているとともに、事業者による安全性向上への改善努力に一定の評価を示す一方、要員召集体制など、対策強化の必要も指摘している。

昨年七月十一日に、官房長官、経済産業相、原発担当相による原子力発電所の安全性確認に関する統一見解、いわゆる「三大臣ペーパー」では、定期検査中で起動準備の整ったプラントに対して実施する一次評価は、運転再開の可否について判断するものとして位置付けられている。今回の保安院による審査結果の取りまとめは、今後、安全委員会による審査に移ることとなるが、大飯3、4号機にとり、再稼働に向けた最初の関門通過となる。

安全委員会は、三大臣ペーパー公表に先立つ七月六日、同設置法に基づき、福島事故を踏まえた既設原子力発電所の安全性に関する総合的評価の実施・報告を経産相宛に指示し、ストレステストの実質的開始となった。これを受けて、十月二十八日に、事業者による報告第一件目として、



関西電力の大飯3号機、十一月十七日には第三件目として同4号機の各一次評価結果が保安院に提出された。

審査は、大飯3、4号機とも、立地環境や原子炉型式が同じであったため、ほぼ並行で行われ、両機セットでの報告書取りまとめとなっている。評価結果では、当初の設計想定より、津波で九五m高、地震で一・八倍の来襲があったとしても、炉心燃料を損傷させない対策が取られており、道路損壊やがれき、夜間の召集などの過酷な条件にも耐えることを確認したほか、外部からの

支援がない場合にも、所内の備蓄資材だけで七日間維持可能などと評価している。

また、審査では、関西電力がストレステストを実施する上での品質保証体制についても、適切と評価している。

い、二月中旬に報告することと求めている。今回評価結果を受けて安全委員会では、外部有識者による検討会を近く開始し、内容を確認し、できれば三月中旬にも結論を出すことをめざす。

### この一週間の出来事

- (9日(木)~15日(水))
- ・経産相「資本注入に十分な議決権を」(13日)
- ・経団連会長が東電実質国有化には反対(13日)
- ・2号機の温度上昇は計器故障と東電評価(13日)

### 原産新聞の紙面から

- ◇国内ニュース
- ・エネ調・基本問題委、電事連他より、ヒア(2面)
- ・保安院が福島事故で住民行動調査実施へ(2面)
- ・日米核セキュリティ作業グループ開催(2面)
- ・米専門家「日本は根本的に変るべき」(4面)
- ◇海外ニュース
- ・仏安全当局がATMEA1の安全性を保証(3面)
- ・仏政府報告が既存炉の運転延長を勧告(3面)
- ・ISTCが福島復興セミナーを開催(3面)

Flexible & Powerful 未来に向かって柔らかくたくましく発展する。

## 耐放射線性に優れたゴム材料

放射線環境におけるゴム材料の耐久性を向上する事により

- 超高濃度放射線レベルでの使用が可能
- 部品交換頻度・作業被ばく量の低減
- 設備機器の信頼性向上
- 豊富な製品ラインナップ (シート・パッキン・シール材etc.)

### 耐放射線環境ゴムの種類と特徴について

区分	ゴムの種類	特徴	使用温度範囲(目安)	耐放射線確認レベル
100シリーズ	EPDM系	機械的強度に優れた材料です。	-35~90℃	8MGy
300シリーズ	EPDM系	汎用で適用範囲の広い材料です。	-35~90℃	20MGy
500シリーズ	EPDM系	高真空系の材料に適しています。アウトガス特性はフッ素ゴム同等以上の機能を有しています。	-50~100℃	1.2MGy
700シリーズ	BR系	2液室温硬化タイプの不定型シール材です。	-20~70℃	2.6MGy
800シリーズ	ブチル系	粘着及び水密性に優れた材料です。	-30~70℃	1MGy
900シリーズ	アクリル系	耐熱、耐油用途に適しています。	-20~130℃	2MGy

耐放射線環境ゴムの研究開発は、独立行政法人 日本原子力研究開発機構殿との共同成果です。

●この製品に関するお問い合わせは [E-mail:info04@hrc.co.jp](mailto:E-mail:info04@hrc.co.jp)

●耐放射線性に優れたゴムに関しては早川ゴムのホームページを参照してください。 <http://www.hrc.co.jp>

早川ゴム株式会社

東京支店内 耐放射線環境ゴム推進チーム  
〒135-0031 東京都江東区佐賀1-16-10  
TEL. 03-3642-1180 FAX. 03-3643-6288